

## 令和3年度第2回「総合的な子供の基礎体力向上策（第4次推進計画）」作成委員会議事要旨

1 日時 令和3年11月8日（月） 午前10時から正午まで

2 場所 東京都庁第二本庁舎 31階特別会議室 22

### 3 議事概要

(1) 東京都教育委員会挨拶 指導推進担当部長 瀧沢佳宏

- ・ 第4次推進計画においては、東京2020大会のレガシー継承やスポーツとの多様な関わり方などを取組の視点として位置付け、東京都の子供たちの豊かなスポーツライフに向けた資質・能力の更なる向上を図っていききたい。
- ・ 本日は、第4次推進計画における成果指標等について、協議をお願いする。

(2) 委員長挨拶

- ・ スポーツ庁の調査「新型コロナウイルス感染症の流行による国民のスポーツへの参画状況や意識の変化、健康状態等に関する調査研究」によると、スポーツ参画に関する意識の変化として、感染拡大前後でスポーツを実施する意欲は全体で9.3%増加となり、観る意欲も1.2%増加している。
- ・ 子供の健やかな学びの保障を図り、子供たちが運動やスポーツとの多様な関わりをとおして、生涯にわたる健康の保持増進や豊かなスポーツライフを実現していくことは、重要である。

(3) 説明（事務局）

○ 第4次推進計画における（案）（資料1）

- ・ 各指標の内容は、東京都体力・運動能力、生活・運動習慣等調査や、全国体力・運動能力、運動習慣等調査の内容を基にしながら作成している。
- ・ 上段には、基盤となる環境の充実として、ICTの利活用に関し、子供の実態把握、指導方法等の工夫の2つを掲載している。これを基盤として、4つの取組の視点を踏まえ進める5つの取組の方向性について、環境の充実、子供の姿の2面から掲載している。
- ・ [取組の方向性1]質の高い授業実践では、環境の充実として、「運動遊びの質の確保」、「エビデンスに基づく教科横断的な年間計画、体育の授業改善」を記載している。子供の姿として、「体育の授業等を楽しんでいる」、「体育の授業における動きの質の向上に関する実感」、「運動やスポーツを大切にする」を記載している。
- ・ [取組の方向性2]運動習慣の確立・定着・改善では、環境の充実として、「幼児の保護者の意識」、「学校の計画的な取組」について記載している。子供の姿では、「毎日、合計60分以上の運動等をする」、「自主的に運動等の時間をもちたい」、「運動習慣について目標を立てている」を記載している。
- ・ [取組の方向性3]生活習慣の確立・定着・改善では、環境の充実として、「エビデンスに基づく計画的な取組」を記載している。子供の姿では、「朝食を毎日食べる」、「スクリーンタイム1日3時間以上の減少」、「睡眠の確保として定刻に寝ている、十分だと感じている」を記載している。
- ・ [取組の方向性4]運動習慣の確立・定着・改善では、環境の充実として、「多様なニーズに応える運動部活動の設置」「専門的な技術指導ができる指導者不在の学校の減少」「合理的かつ効率的・効果的な活動」を記載している。子供の姿では、「充実した活動になっていると感じている」を記

載している。

- ・ [取組の方向性5]気運醸成では、環境の充実として、「PDCA サイクルのシステムの確立と運用」「学校として教員等を研修等に計画的に派遣して、自校の取組に反映」「積極的な広報」「教師の関心」「家庭の関心」を記載している。気運醸成は、学校、保護者を中心に高めることを主とし環境の充実に取組、結果として子供の気運も高まると期待することから、子供の姿は記載していない。
- ・ 下段は、結果として高まる子供の姿として、「運動等をする事、みる事、支える事、知ることが好き」、「体力合計点・総合評価の向上」、「精神的要素の行動体力として、難しいことでも、失敗をおそれないで挑戦している」、「防衛体力として疲れにくいと感じている」を記載している。

#### (4) 協議

##### ○ 第4次推進計画における成果指標（案）（資料1）

- ・ (委員) 運動やスポーツが好きな子供や見るのが好きな子供とあるが、改善してほしいのは、好きでない子供が改善することが重要ではないか。
- ・ (委員) 運動やスポーツをすることが好きな子供の増加が、嫌いや苦手な子供の減少とつながるのか。
- ・ (事務局) 個別最適な学びが重視されている中で、運動やスポーツが苦手・好きでない子供も大切にしていきたいと考えている。
- ・ (委員) 成果指標について、環境の充実と子供の姿を分けることによってとても分かりやすくなった。
- ・ (委員) 結果として高まる子供の姿で、「体力合計点」DE層の子供及びABC層の子供の変化について、クローズアップした視点もあってもよいと思う。
- ・ (委員) 生活習慣の「朝食を食べる子供の増加」については、現時点でも食べていると認識している子供は多い。
- ・ (委員) 「スクリーンタイム」は3時間以上よりも2時間以上がよりよいのではないか。
- ・ (委員長) 細かい部分については事務局で精査をお願いします。
- ・ (委員) 方向性1「多様な動き」には「楽しみながら」が前提として入っている捉えでよいか。
- ・ (委員) 方向性2の保護者は、記載の仕方によっては子供の運動習慣定着のために外部（運動教室など）に依頼する考えにもつながるので、「幼児が楽しみながら」という視点を落とさないよう、注意する必要がある。また、幼児期は、保護者の意識が占める割合は多いので、方向性2に保護者の意識を入れるのであれば、方向性3にも入れると分かりやすい。
- ・ (委員) 方向性1「体力テストの結果分析」とあるが、すでに分析している学校も一定数ある。学校としての改善計画と子供の姿としての改善がある中で、今後は「個別最適化」につながる考え方が重要であると考えます。
- ・ (委員) 方向性4「専門的な技術指導ができる指導者不在の運動部活動の割合の減少」では、ニーズに応えられる指導者の確保が必要であり、施策としてどのように展開されるか重要である。

#### (5) 説明（事務局）

##### ○ 総合的な子供の基礎体力向上方策（第4次推進計画）（案）（資料2）

- ・ 第1章は、「第4次推進計画で目指す子供の姿」とし、内容は、「体力とは何か」、「体力の重要性」、「子供に求められる体力」、「『未来の東京』に生きる子供の姿」としている。

- ・ 第2章は、「東京都の子供の姿」とし、内容は、「これまでの取組」、「これまでの取組の成果と課題」、「新型コロナウイルス感染症感染拡大における影響」としている。
- ・ 第3章では、「これからの子供の体力向上のための総合的な方策」とし、「新しい日常」、「4つの『取組の視点』」、「5つの取組の方向性」としている。
- ・ 第1章の1「体力とは何か」は、第1次推進計画から継続して記載しているに体力とは何かについて、引き続き掲載する。
- ・ 2「体力の重要性」は、第1次推進計画で掲載した体力を高める4つの重要性を記載する。
- ・ 3「子供に求められる体力」は、学習指導要領に記載されている体力の2つについて記載する。
- ・ 4「『未来の東京』に生きる子供の姿」は、体力合計平均点を単に高めるということではなく、運動やスポーツとの多様な関わりを通して、健康で活力に満ちた生活をデザインすることができるということを大切にすることを記載する。
- ・ 第2章の1「これまでの取組」は、第1次推進計画から第3次推進計画の概要と第3次推進計画である「アクティブプラン to 2020」で設定した体力テストの具体的目標値、第3次推進計画を策定するに当たって基となった平成27年度の結果、コロナ禍前の令和元年度の結果を一覧表で示す。
- ・ 2「これまでの取組の成果と課題」は、これまでの取組の成果として、学校における体力向上の取組が強化されたこと、子供の体力合計点平均値が向上傾向にあることを掲載する。課題として、運動やスポーツが好きな子供が、学年が上がるにつれて減少する傾向の改善、朝食を毎日食べない子供、睡眠が6時間未満の子供が、学年が上がるにつれて増加する傾向の改善、体力水準が高かった昭和60年頃と比較すると依然として低い水準の改善を掲載する。
- ・ 3「新型コロナウイルス感染症感染拡大における影響」は、現在、令和3年度の体力テストの結果を集計中である。
- ・ 第3章の1「新しい日常」は、子供たちの力を最大限伸ばすためには、ICTが不可欠であることを記載する。
- ・ 2「4つの『取組の視点』」3「取組の方向性」は、4つの取組の視点及び、各取組の方向性がなぜ大切なのか、施策の方向性についてそれぞれ記載する。

## (6) 協議

### ○ 総合的な子供の基礎体力向上方策（第4次推進計画）（案）（資料2）

- ・（委員）オリンピックのレガシー継承について、4次計画の中で、レガシーは何を大切にしているのか。
- ・（事務局）オリンピック・パラリンピック教育において、「ボランティアマインド」「スポーツ志向」などの資質を育成してきた。東京2020大会終了後もこれらの資質の育成を大切にしていく。
- ・（委員）「新型コロナウイルス感染症感染拡大における影響」は、ネガティブな結果だけにならないよう、ポジティブな結果も掲載されるとよい。
- ・（委員）「質の高い授業実践」では、具体が見えにくいので、どのような工夫をすると質の高い授業改善につながるか示せるとよい。
- ・（委員）全体を通じて「主体的」「楽しみながら」が大切である。また、「新しい日常」と「ICTの活用」について、内容が伝わるよう整理する必要がある。
- ・（委員）第3章「生活習慣の確立・定着・改善」が重要なので、第1章でも生活習慣の大切さが

示せると第2章につながるのではないか。

- ・(委員) 都民や保護者に示すものであるため、分かりやすいものがよい。
- ・(委員) 体力テストの元年度と3年度の比較は、体力を維持していくためには何が必要か、コロナをきっかけに見えてきたことを示し、第3章につなげるとよい。
- ・(委員) 内容を教育課程にどのように位置付けていくのかの視点やPDCAサイクルについて、学校が落とし込みやすいものにする必要がある。
- ・(委員) 特別支援学校の子供たちは、介助者や支援者がいる環境の中で遊んでいる。保護者が働き続けられるように制度が整えられていく中、放課後、「福祉」とどう連携していくかが課題である。
- ・(委員) 「運動部活動の推進」における「外部人材の活用」「段階的な地域移行」は「働き方改革」と連動する。学校だけの問題ではないので、企業や大学等と連携をする視点も必要である。
- ・(委員) 「新しい日常」と4つの「取組の視点」が、「取組の方向性」にどのようにつながるのか、保護者や都民にも分かりやすく示していく必要がある。
- ・(委員) 体力テストの解析や分析について、まとめて示すと分かりやすい。
- ・(委員) 「心身の健康の保持増進の深刻化」について、何が深刻化しているのか。また、体力テストの比較について、2年前の3年生と今年の5年生というような学年特有の傾向に触れていますか。
- ・(事務局) 国民の寿命が長くなっている中で、「健康な生活を送ること」が今まで以上に大切になってくることを示している。体力テストの学年特有の傾向については把握していないので、分析をしていく中で視点を大切にしていく。
- ・(委員) 取組の視点「共生」が、「取組の方向性」のどこにつながっているのか分かる形でまとめるとよい。質の高い授業実践が重要になってくるので、ICT活用の中で具体的に示せるとよい。
- ・(委員) 高校では、来年度から新学習指導要領が年次進行で進む。小中と系統的に学んできた子供が入ってくるため、高校でも第4次推進計画で「運動が楽しい」と思わせることが重要である。また、コロナ禍におけるオンライン授業の充実や、全ての教科での探究的な教育活動を反映させると、より時代に合った方向性になると考える。
- ・(委員) 特別支援の特性上、保護者の協力が必要である。「生活習慣の確立」について保護者の役割や卒業後の社会人としての視点「生涯学習」等も検討が必要である。

## (7) 報告(事務局)

### ○ 意見募集について

- ・ 総合的な子供の基礎体力向上方策(第4次推進計画)に都民の意見を反映させるため、今後、意見を広く募っていく。まず、11月下旬から12月中旬にかけて、方向性について、児童・生徒から意見の聞き取りを行っていく。
- ・ 意見を反映させた素案について、1月中旬から2月中旬にかけて、都民への意見募集、さらに素案を子供用に分かりやすくしたリーフレットを周知し、広く児童・生徒への意見募集を実施する。
- ・ 意見を、今後の目指す子供の姿、これからの取組、具体的な取組等に反映させ、今年度中に策定、公表する予定である。

## 4 出席者

【作成委員】				
		所属・職	氏名	出席
1	学識経験者	日本女子体育大学体育学部 教授	高橋 修一	○
2		十文字学園女子大学教育人文学部 教授	鈴木 康弘	○
3		順天堂大学スポーツ健康科学部 准教授	荻原 朋子	○
4		日本体育大学体育学部 教授	野井 真吾	○
5	学校関係者	東京都国公立幼稚園・こども園長会（江東区立豊洲幼稚園園長）	高橋 由美子	○
6		東京都小学校長会（大田区立田園調布小学校 統括校長）	本田 幸彦	欠席
7		東京都中学校長会（三鷹市立第三中学校 校長）	宮城 洋之	○
8		東京都公立高等学校長協会（都立富士高等学校・附属中学校 統括校長）	野村 公郎	○
9		東京都立特別支援学校長会（都立永福学園 統括校長）	伏見 明	○
10	関係者 教育委員会 区市町村	特別区教育委員会指導室課長会（荒川区教育委員会指導室長）	津野 澄人	欠席
11		東京都市管理指導室課長会（狛江市教育委員会教育部理事）	小嶺 大進	○
12	教育庁関係者	東京都教育庁指導推進担当部長 <副委員長>	瀧沢 佳宏	○
13		東京都教育庁総務部企画担当課長	岐下 英男	○
14		東京都教育庁都立学校教育部学校健康推進課長	中坪 直樹	欠席
15		東京都教育庁地域教育支援部義務教育課長	北澤 多美	○
16		東京都教育庁指導部指導企画課長	栗原 健	○
17		東京都教育庁指導部義務教育指導課長	中嶋 富美代	○
18		東京都教育庁指導部高等学校教育指導課長	堀川 勝史	○
19		東京都教育庁指導部特別支援教育指導課長	島添 聡	○